

『グローバル時代の英語教育—Content-based Process Writing for Oral Presentation—』

中村耕二著（英宝社、2007年4月）

国際言語文化センター教授 中村 耕 二

外国語教育は国際理解教育であり、自文化理解への扉でもある。また、それは広義において、平和や地球環境を視野に入れた地球市民教育に収斂すべきものとする。

本書は著者自身の甲南大学における英語教育実践に基づき、グローバル時代に求められる英語教育のあるべき姿に挑戦した。本書の目的はグローバル化が急速に進む世界に具体的に対応できる英語教育として、5年間にわたり甲南大学で実践した内容重視の発信型プロセス・ライティングの授業実践研究を具体的に紹介し、世に広くその教授法の有効性を問うものである。

本書で紹介する“Content-based Process Writing for Oral Presentation”（以下CPWOPと略す）は学習者が人間社会や人類共通のグローバルな問題に関する意識を高め、プロセスを追って自分の意見を目標言語で表現することを目標としている。つまり、グローバルなテーマに関する大量の英文を読んで背景知識を深め、同時に臨場感のある映像を見て問題意識を高める。その上で、プロセスを追って自分の考えをまとめ、クラスメートと協力しながら英文を完成し、クラスの前で口頭発表していくものである。

具体的には、学習者が自分の考えを、複数のまとまりのあるパラグラフにまとめ、文法や内容を互いに点検し、教師のアドバイスに基づき書き直す。プロセスを重視しながら、英語の小論文やエッセイを完成させ、さらに、その内容を国際英語（English as an International Language）を用いて口頭発表する。つまり、書くことと、口頭発表することを統合した総合的な英語授業プログラムである。

この授業で扱うテーマは人類共通の問題である。主なテーマは地球環境、平和、貧困、内戦、地域紛争、難民、核問題、平和の出発点としての広島・長崎・沖縄、南北問題、飢餓、児童労働、人権、人間保障、性差別、グローバリゼーションと経済格差、人類愛、日本文化、文化アイデンティティなどである。

第1部では、グローバル時代における外国語教育の意義、多文化共生のための国際対話能力と自文化の表象、人間教育・国際理解教育としての英語教育について論じている。

第2部では発信型のプロセス・ライティングの一貫として、内容重視のプロセス・ライティングとプレゼンテーションの統合をProcess WritingやContent-based Instruction等の理論を踏まえて紹介している。日々の英語の授業の中で少しでも活用できるよう、いくつかの教授法とコミュニケーションタスクやプロセスを重視した言語活動、教師の役割等も紹介している。

第3部では授業に生かせる発信型プロセス・ライティングの授業方略を学習プロセスに従って具体的に示した。いかにして学習者がプロセスを追ってライティングを学んでいくかを説明している。エッセイ全体の構成（organization）、一貫性（coherence）、パラグラフの構成要素（paragraph component）などを習得するトップダウン・アプローチと文構造、文法、語彙などを確認するボトムアップ・アプローチを説明している。

第4部では、内容を重視し、英語のプレゼンテーションのためのプロセス・ライティングの

授業を、各テーマに沿って、具体的に紹介している。甲南大学で実践したシラバスに基づき、各テーマ別にライティングとプレゼンテーションの方略を紹介している。また、学生が書いたプレゼンテーションの原稿、教師側の指導上の留意点等もそれぞれのテーマに沿って掲載した。最後に授業改善のために、このCPWOPの試みのフィードバックとして、学生による授業評価、授業に対する感想・意見・批判なども紹介している。

最後に、私は34年間、英語教育と国際理解教育に従事し、様々な現場で働いてきた。その経験から二つだけ確信に至ったことがある。つまり、「教師が自己変革すれば、学生の態度も変

化し、授業も変わる。」また、「外国語の教師は目標言語で授業を行うための、たゆまぬ努力と授業改善のための研鑽が必要である。」これは私自身の外国語教育に対する教育哲学でもある。教師自身の発想転換と意識改革と実践なくして、わが国の英語教育は変わらない。英語のプレゼンテーションのための内容重視のプロセス・ライティング（CPWOP）は英語教師や、英語教師を目指す学徒の多くが試すことができ、相互に学び合える学習アプローチである。CPWOPの試みは、外国語学習の教室をコミュニケーションのための「学びの共同体」に変容させる契機になるであろう。



本号の「自著を語る」のコーナーで紹介された本の所蔵案内

『育てることの困難』 高石恭子著

人文書院 2007

請求記号 370.4//2055 配架場所 図書館1階開架一般

『雑草のはなし』 田中 修著

中央公論新社 2007

請求記号 S081.6/1890/29 配架場所 図書館1階開架小型

『下肢トレーニングの科学—膝関節荷重メカニズムの解析から—』 曾我部晋哉著

不昧堂出版 2007

請求記号 491.366//2006 配架場所 図書館1階開架一般

『グローバル時代の英語教育—Content-based Process Writing for Oral Presentation—』

中村耕二著

英宝社 2007

請求記号 375.893//2010 配架場所 図書館1階開架一般

書庫入庫のすすめ

図書館には約45万冊の本があります。うち、1階、2階の開架図書は約9万冊あります。開架図書は書架から自由に手にとって閲覧できる（ブラウジングと言います）図書のことです。しかし、約80%の図書は3、4階の書庫にある閉架図書です。これらの図書の利用は、2階カウンターで申し込み、係員が書庫から持って来る出納方式をとっています。できれば、開架図書のように直接手にとって本を選びたいですね。

そこで、本が好きでたまらない方は、書庫入庫ガイダンスを受講していただきましたら、書庫入庫ができます。このガイダンスでは、基本的な図書の並びや、書庫資料の利用についての注意点等を説明いたします。ガイダンスの所要時間はレクチャーと書庫見学を含め約20分です。実施日は図書館ホームページ等をご覧ください。

出来るだけたくさん本に接したい、読みたいという方はふるって書庫入庫ガイダンスを受けてください。図書館を積極的に利用することにより、学生生活を一層充実したものにしてください。